

非定型BSEについて

定型BSEと非定型BSEの違い

	定型BSE	非定型BSE
定義	BSEプリオランが主に脳に蓄積し、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動、運動失調などを示し死亡すると考えられる疾病 英國で1986年に発生を確認	ウェスタンプロット法の結果（電気泳動像）が定型BSEとは異なるパターンを示すBSE
原因	BSEプリオランで汚染された飼料の経口摂取	発生原因の詳細は不明 (孤発性の発生であることが示唆)
潜伏期間・ 摘発時年齢	平均潜伏期間は5～5.5年 (潜伏期間はBSEの暴露量による)	ほとんどは8歳齢超で確認 (6.3歳～18歳)
世界での発生数	約19万頭	92頭 (2014年7月21日時点)
備考	—	ウェスタンプロット法の結果、定型BSEよりも無糖鎖PrP ^{Sc} の分子量が大きいものをH型、小さいものをL型と呼ぶ。 また、2011年にイスでこれら以外の非定型BSE症例2例（8歳と15歳）が確認。

非定型 BSE の発生状況

近年の BSE 発生のうち、非定型 BSE について、既知の情報により集計したところ、以下のとおり。

2011 年 9 件 (全 29 頭中)

オランダ 1 (L)、ポーランド 1 (L)、英國 2 (L1, H1)、スイス 2 (新タイプ)、
スペイン 1 (H)、アイルランド 1 (H)、イタリア 1 (L)

2012 年 6 件 (ブラジル 1 件を含まない) (全 21 頭中)

英國 1 (L)、スペイン 3 (H1, L2)、スイス 1 (H)、米 1 (L)、(ブラジル 1)

2013 年 3 件 (全 7 頭中)

フランス 2 (H)、英國 1 (H)

2014 年 3 件 (ブラジル 1 件を含まない) (全 4 頭中)

ドイツ 2 (L, H)、ルーマニア 1 (L)、(ブラジル 1 (H))

出典 : OIE 通報、2012 年までの EU のレポート、英國 Defla の 2013 年までの報告書

(参考)

世界の非定型BSE事例

(2014年7月21日現在)

	L型	H型	その他	小計
オーストリア	2	1		3
デンマーク	1			1
フランス	14	15		29
ドイツ	2	2		4
アイルランド		4		4
イタリア	5			5
オランダ	3	1		4
ポーランド	13	2		15
ポルトガル		1		1
ルーマニア		1		1
スペイン	2	2		4
スウェーデン		1		1
英國	4	5		9
スイス		2	2	4
米国	1	2		3
カナダ	1	1		2
日本	2			2
総 計	50	40	2	92

(出典) EU : Report on the monitoring of ruminants for the presence of Transmissible Spongiform Encephalopathies (TSEs) in the EU in 2012 等

スイス : Virology Journal 2009, 6:64, OIE HP

米国、カナダ、日本 : 食品安全委員会 牛海绵状脳症 (BSE) 対策の見直しに係る食品健康影響評価 (2012年10月)、農水省 HP